

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気動向指数（2009年5月）

発表日：2009年7月6日（月）

～ 一致C Iは2ヶ月連続で上昇。基調判断は改訂値で上方修正される可能性あり ～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ C I一致指数は2ヶ月連続、C I先行指数は3ヶ月連続で上昇

09年5月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+0.9ポイントとなり、2ヶ月連続で上昇した。在庫調整の進展や輸出の増加等を背景として景気が回復に向かっていることを示していると考えられる。当面、輸出・生産の回復が続く可能性が高いことを踏まえると、一致C Iは09年3月をボトムとして上昇局面に転じたとみて良いだろう。5月分の一致C Iの構成系列をみると、投資財出荷や有効求人倍率、商業販売額など、雇用・消費関連や設備投資関連指標が冴えない一方で、鉱工業生産、生産財出荷、大口電力使用量、製造業所定外労働時間など、生産関連指標のプラス寄与が大きい。

また、先行C Iも前月差+0.8%とプラスだった。これで3ヶ月連続の上昇であり、今後の景気を占う上で明るい材料と言えよう。

○ 基調判断は現状維持だが、17日公表の改訂値で上方修正される可能性が高い

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、「悪化を示している。ただし、C I一致指数の前月差が2ヶ月連続プラスになるなど、下げ止まりの動きも見られる。」となり、前月から判断が据え置かれた。内閣府が設定している「3ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合」という上方修正のための基準を満たすには、5月分で前月差+1.0ポイントが必要だったが、5月は前月差+0.9ポイントにとどまり、僅かに基準を満たさなかった。

もっとも、本日公表されたものは5月分の速報値であり、7月17日には、現時点でみ公表である5月分稼働率指数や、鉱工業指数の5月分確報などの結果を反映させて作成し直した改訂値が公表される。稼働率指数の大幅上昇がほぼ確実な状況であることから考えると、C I一致指数は改訂値で上方修正される可能性が高く、基調判断上方修正の基準が満たされることになるだろう。その場合、基調判断は「下げ止まり」に上方修正され、基調判断から「悪化」の文字が消えることになる。

なお、やや気は早いだが、「下げ止まり」から「改善」へとさらに上方修正されるためには、「原則として3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が上昇した場合」という基準を満たし、同時にその月の一致C Iが前月差で上昇している必要がある。早ければ9月に公表される7月分で、この条件を満たすだろう。

